

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 61

2025年12月発行



令和7年度 企画展②

旧植田家、我楽多万博2025

旧家で芸能・伝統文化

錦影絵プロジェクト3 上演

旧家で観月会で錦影絵 上映

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (五十五)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



展示・イベント案内

令和7年度 冬季企画展

は・こ・ぶ、 昔の暮らし

令和7年(2025) 12/6(土) ~ 令和8年(2026) 3/15(日)

〈開館時間〉9:00~17:00(入館は16:30まで) ※最終日は16時まで(閉館を要す)
 休館日:火曜日、12/28(日)~1/4(日)、1/14(水)、2/12(木)・25(水)
 (入館料)一般250円、高校・大学生120円、中学生以下は無料

旧植田家住宅にのこる
江戸〜昭和時代までの
「運ぶ」道具を展示!

はこ箱
おけ桶
かご籠
めの布

展覧(展取)
台付き十瓶
手置台
御盆
舟倉箱
風呂敷
文井桶
矢立・財布
行李・カバン etc...

企画展関連イベント

- 2/1(日)体験講座「運ぶ昔の暮らし」
・13:30~15:00 ※要申込み、定員10名、100円(資料代)
- 2/11(水・水)展示解説の日(学芸員の立ち話)
①11:00~、②14:00~ ※申込み不要、各20分ほど

土蔵1(常設)にも
昔の道具がいっぱい!

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅
(指定管理: NPO法人HICAL)
〒581-0084 大阪府八尾市穂松町1-1-25 TEL 072-992-5311 kyu-uedakejutsuko.jp/



展示・イベントのご案内

※休館日はP15をご覧ください

◎ 2025年12/6(土) ~ 2026年3/15(日)

企画展③「は・こ・ぶ、昔の暮らし」

→旧植田家住宅にのこる江戸〜昭和時代までの「運ぶ」道具を一室に展示。

Contents

- 4 令和7年度 企画展②
旧植田家、我楽多万博 2025
- 6 「土蔵でクラフト」でミニすだれ&木挽き人形
- 7 「防災！かまど体験」で消防訓練
- 8 旧家で芸能・伝統文化
錦影絵プロジェクト3 上演
- 10 「旧家で観月会」で錦影絵 上映
- 11 日日植田家住宅 第18日：お茶会へ行こう
- 12 四会所だより(40)～四会所、再開～
- 13 植ちよぴ(植松灯籠、七五三、通常展&ギャラリーミニ展)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (五十五)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

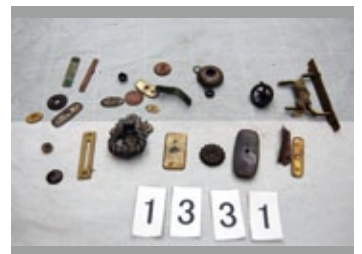


展示室入口にて
バックナンバー
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

《金具類、知恵の輪ほか》

金具、金属類、木片、鍵、欠片、部品など単品では何の役にも立たないガラクタ(收藏品)を楽しむ企画展「旧植田家、我楽多万博2025」を夏期に開催。展示の詳細は4・5頁を参照。



触れる

「謎の石」から

江戸〜昭和時代

「昔の最新機器」まで

予想以上に、我楽多だ。



令和7年度企画展②

旧植田家、 がらくた ばんぱく 我楽多万博2025

令和7年(2025)

7/19(土)～9/29(月)



「雅楽多」

象牙や装飾入りの道具類



「謎の道具」

用途不明の道具 (陶器類)



カエルが彫られた結界(茶道具)



用途不明の金属・木製品



←展示品目録

令和7年度企画展②

旧植田家、我楽多万博2025

価値のない雑多な物を意味する「がらくた」という言葉は、元々たくさんの方がふれ合って出る「ガラガラ」という音と、ゴミやクズを意味する「芥あぐた」または「朽く」が変化して「クタ」を合わせた「瓦落多がらくた」が語源とされています。一方「がらくた」といわれる無価値なものも見方を変えると、骨董品やコレクションなど歴史的・個人的価値や、リサイクル、リユースできるものとして新たな価値を見出すこともできます。これを「我楽多」という字を当てて「がらくた」と呼びます。

2025年4月13日～10月13日、大阪の廃棄物最終処分地である人工島の夢洲(大阪市此花区)において「2025日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開催され、「いのち輝く、未来社会のデザイン」をテーマに、日本をはじめ世界の最新技術や文化などが紹介されました。

本企画展では江戸時代から続く旧植田家住宅に収蔵される「がらくた」に焦点を当て、脈々と伝わる旧植田家の暮らしぶりや時代の空気にもふれてもらうべく、我楽多にもう一度輝きを与えようと試みました。

「玩具館」



付録のカード

知恵の輪ほか

「瓦斯館」



ガス製品の部品



ガスコンロ



工芸館

「ガラス館」



空き瓶、瓶のふた

「電気館」



ソケット、スイッチ類、謎の箱



「工芸館」



簪、笄など装飾品の部品

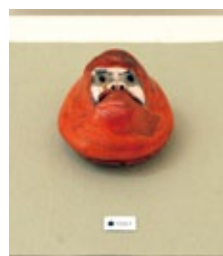


瓦、陶片、木片など



金具、金属類、部品、破片など

「我楽多」



大物!? 達磨の香炉



持ち手・引手類



鍵類と輪っか(リング)



飾り、鈴、ボタン・ビーズほか小物類

「がらくた紹介」

本展では資料を8つのパビリオンに分類し、展示品にはあえて名称や解説を書かず、資料番号のみを表示。「玩具館」「ガラス館」「瓦斯館」「電気館」「工芸館」の各コーナーにはそれぞれの特徴に応じた「がらくた」を展示し、「我楽多館」では瓦をはじめ、何かの欠片や木片、破片、金属部品、金具、引手、鍵類、輪っか(リング)、小物類などが所狭しと展示ケースに並びました。また別の展示ケースでは、我楽多万博の目玉である「さわれる謎の石」や用途不明の陶器類、金属製品、木製品を集めた「謎の道具館」と、すこし雅なガラクタ(に見える実用品)を展示した「我楽多館」のコーナーを設けました。

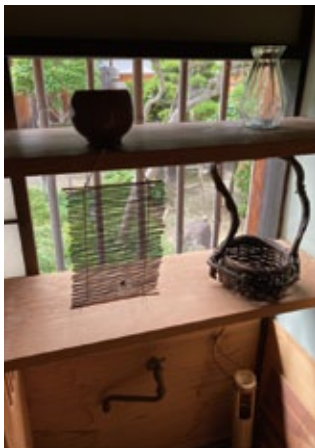
旧植田家住宅にはおよそ4万点の収蔵資料が伝わっていますが、中には今回のような我楽多とされるものも多く含まれています。しかし、これらはただのがらくたではなく、れっきとした文化財です。いまや使い道がなく展示するまでもないような「がらくた」であっても、この300年間の激動の時代を生き抜き、奇跡的に取り残されてきた尊いものたちであることは間違いありません。

(学芸員 安藤亮)

8 / 6 「ミニすだれ」作り

夏休みの工作企画「土蔵でクラフト」(全2回)では、身近な素材で昔の玩具や小物作りを行なっています。

今年の第1回目は、オリジナルのすだれ編み機を使つての「ミニすだれ」作り。竹材を一本一本丁寧に編んでいくと、あつという間にすだれが完成。オマケのシールや折り紙で装飾すると、自分好みのミニすだれが出来上がりました。



窓際のミニすだれ



飾りをつけて完成!

大人も子どもも
いっしょに工作!

どうぞ

令和7年

土蔵でクラフト

身近な素材を使った
昔の玩具や小物作り

8/6
(水)

「ミニすだれ」



※写真はコト編み機

8/20
(水)

「木挽き人形」



8 / 20 「木挽き人形」作り

昨年好評だった江戸のからくり玩具「木挽き人形」作りを今年も実施。素材は余ったパネルと竹箸を使用し、可動部分を爪楊枝で固定。仕掛けの棒を動かすと、人形が木を切る動作をします。参加者には自由にキャラクターを描いてもらい、丸太も好きなものに替え、組立て作業を行ないました。微調整の後、全員無事に「ごっこごこ…」遊ぶことができました。



丸太を切る猫



のこぎりを構えて…

防災（ぼうさい）！

消防避難訓練 付

かまどでご飯炊き体験

いざ、という時

かまどが使えたら・・・



昔のくらしと防災

- ・かまどご飯
- ・アルファ化米、非常食などの試食
- ・備蓄品、防災グッズ
熱中症対策など

2025年

9月7日(日)

午前10時00分～正午



避難訓練の実施確認（土間）



避難完了の点呼（正門前）



庭に消防車が待機



参加者と消火訓練

「防災！かまど体験」で消防訓練

地震や火事などの災害に備え、旧植田家住宅では毎年消防避難訓練を行なっています。文化財施設ということもあり、来館者の安全確保を最優先し、建物などの保護にも努めなければなりません。

そこで旧植田家住宅では「防災！かまどご飯炊き体験」を実施し、火の取り扱いやかまどの使い方を学び、併せて避難訓練と消火訓練も行なっています。訓練には消防署の方に立ち会っていただき、施設スタッフは通報訓練や避難誘導の指導を受けます。またイベント参加者には避難役と水消火器による消火訓練にも参加してもらいました。

訓練が終わると、かまどでご飯炊きに挑戦。ご飯が炊けるまでの間は施設の防火管理職員による防災グッズの紹介と防災の話がありました。そしてご飯が炊けると、様々な防災食が用意され、炊き立てのご飯と一緒に試食することができました。いつも通り防災意識が高められ、お腹も満たされる「防災の日」イベントでした。

（旧植田家住宅 スタッフ）

旧家で芸能・伝統文化

錦影絵プロジェクト3

上演

日本のアニメーションの原点



令和7年 11月9日(日)
2025 午後2時～上演(約60分)

旧家で芸能・伝統文化

錦影絵プロジェクト3 ～上演～

令和7年6月から11月までの約半年をかけた「錦影絵プロジェクト3」は、11月9日(日)、およそ60分間の「上演」をもって終了した。

幻燈機(風呂)を操り、和紙のスクリーンの裏側から「種板」の絵を投影し、人々を驚かせる江戸時代の芸能・伝統文化である「錦影絵」は日本のアニメーションの原点ともいえる。様々な鳴り物(効果音)や口上(語り)に合わせて物語り世界を展開し、江戸(関東)では「写し絵」と呼ばれる。

この「錦影絵」の幻燈機を操作し物語を演じる人を「幻燈師」という。3期目となるプロジェクトでは幻燈師をやってみたい人を再募集した。5月には錦影絵の啓発のためのワークショップを実施し(『旧植田家だより』60号を参照)、その後、なんと19名にも及ぶエントリーがあり、プロジェクトがスタートした。

メンバーの半分は1～2期目からの継続であるが、もう半分は新規のため、



「桜白浪憑依豆袋」のラストシーンを演じる幻燈師たち



スクリーン裏の様子

試演 曲独楽

演目2 桜白浪憑依豆袋

再演 花輪車



口上 福助口上

演目1 池田の猪買い

解説 錦影絵



再演 (アンコール) の「花輪車」を初披露



錦影絵の解説をする錦影池田組代表と幻燈師

先輩幻燈師たちがサポートを行なった。錦影池田組の指導のもと、先の二年間で培われた技術は着実に継承され、新規メンバーへとさらに伝えられた。

さて、暗闇の中で演じる錦影絵の本番は、少し雨模様様の昼間に旧植田家住宅の座敷で行なわれた。会場は黒いカーテンなどで覆われ、演者と観客との間には和紙のスクリーンが吊られた。

定刻になり照明が落ちると、真っ白なスクリーンが黒く染まり、暗闇の中にふっと「福助」が現れた。軽快な口調で口上が述べられると、続いて落語を基にした錦影絵作品「池田の猪買い」が演じられ、会場の笑いを誘った。

錦影絵の解説を挟み、後半は試演として「曲独楽」が披露された。新規を含むベテラン幻燈師たちの完璧な演技に会場はさらに盛り上がりを見せ、この流れを受けて演じた「桜白浪憑依豆袋」は全メンバーが出演し、熱演を繰り広げた。

錦影絵の上演は今回初演の「花輪車」で幕が下り、終演後も観客は幻燈師たちとの交流を通じて錦影絵の世界に浸っていた。

(植田家錦影絵プロジェクトメンバー)



月とススキ（縁側からの風景）

令和7年
10月5日(日)

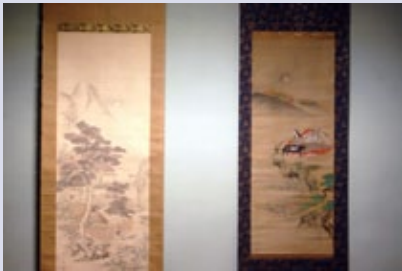
静かな秋の夜長に…

きゅう か かん げつ かい
旧家で観月会

～ 夜間開館 ～



庭に浮かぶ中秋の名月
（主屋2階から）



月が描かれた掛軸
（座敷1床の間）

「旧家で観月会」で錦影絵「上演」
「庭でお月見、雨でも座敷で掛軸を、月見団子とともに」楽しむ観月会は、年に2回ある夜間開館の一つとして、十五夜に近い土曜または日曜日に開催しています。今年は10月6日が十五夜だったため、前日5日の名月を参加者と一緒に楽しみました。観月会では当日限定の「月の掛軸」の展示と月見団子（予約制）、そしてお月見をメインにしていますが、毎回お楽しみイベントも用意しています。前回は「のこぎり音楽と蓄音機の音遊戯会」でしたが、今年は11月の



錦影絵の告知と幻燈機
（仏間にて）



錦影絵「上演中」



（旧植田家住宅学芸員）

錦影絵「上演」の告知を兼ねて、錦影絵作品の「上映」を試みました。
映像は錦影絵プロジェクトの指導に当たる「錦影繪池田組」のyoutubeチャンネルから許可をいただき、上演予定の演目2作品を、幻燈機（風呂）の解説を交えながら上映。実演とは全く違うものですが、演目が終わるごとに拍手も起こり、錦影絵独自の世界観に惹きつけられた様子でした。
この日、錦影絵にも登場するような幻想的な月が見られ、上演の成功を祈願するとても縁起の良い観月会となりました

雑記帳
旧植田家住宅
 - 日常から日用まで -

第18日：お茶会へ行こう！



Tea ceremony



お茶会の開催

旧植田家住宅には茶室が設えられ、座敷には「茶道具尽くしの欄間」が見られます。また茶道具も多く収蔵されていることから、代々お茶を嗜んでいたことがうかがえます。

現在旧植田家住宅ではお茶(茶道)を気軽に体験できる機会として、秋と冬の年2回、お茶会を開催しています。だれでも参加でき、日本の文化が味わえるお茶会について紹介したいと思います。



また来秋もよろしくお願ひします。

【秋のお茶会】

秋のお茶会は、2016年の夏季



企画展「植田家の茶道具」関連企画として実施した八尾高校茶道部の協力による「夏のお茶会」が最初でした。以降、毎年7月～8月に開催。コロナ禍で一時中止しましたが2022年に再開しました。

ところが、コロナと近年の温暖化による猛暑の影響で参加者が減り、実施も困難

な状況の下、2025年は開催時期を10月にずらし「秋のお茶会」として実施。その

結果は良好で、来年もまた秋の開催を予定しています。八尾高校茶道部の皆様、

【新春のお茶会】

1月中旬に開催する新春(冬)の



お茶会は、4歳以上の子どもを対象に、地元女性会の協力により「こどものためのお茶会」として2012年から行なっています。秋と同様にコロナ禍での中止もありましたが2024年から再開。今年度は令和8年1月18日(日)に開催を予定しています。

秋のお茶会とは少し異なり、子どもたちは簡単なお作法やお点前の体験ができ、同席する保護者がある様子を見守ります。旧植田家住宅で開催する秋と冬のお茶会へ、さあどうぞ！



四会所だより (40)

四会所、再開！

2025年12月の「四会所交流会」は、約一年半ぶりに加賀屋新田会所で行なわれました。2024年に入り、建物の耐震補強工事などのため約1年間休館・休園となっていた鴻池新田会所跡(東大阪市)と加賀屋新田会所(住之江区)が、この度再開されたからです。

先に再開した鴻池新田会所は、10月4日(土)と5日(日)にオープニングイベントが開催され、両日千人以上の来場があったそうです。リニューアルした鴻池新田会所は指定管理者が新たに代わり、有料の入場料が無料になりました。またこれまで出口専用だった北口(自動扉)も解放され、北側からの入場が可能になり、利便性の向上と、駅からの距離も短縮されました。各種イベントについては今後増えていくということです。



一方、加賀屋新田会所(加賀屋緑地)も11月21日(金)再開の予告がホームページに掲載され、その後無事に再開されました。建物は耐震補強と一部LED化がされ、襖絵とシロアリなどで損傷した部分もきれいに補修されていました。また庭や表門の竹垣がリニューアルされ、久しぶりの訪問でしたが、変わらず癒しの空間が広がっています。今回は二会所の再開について紹介しましたが、平野屋新田会所跡(大東市)も現在、周辺の文化財を結んでの整備計画が進められているそうです。来年再来年と、さらに楽しみが増す四会所の現状。この交流が未来へとつながっていくように願っています。

(安中新田会所跡 旧植田家住宅 安藤亮)



※写真はリニューアル前の南門



※写真はリニューアル前の入口

国指定史跡・重要文化財

- 鴻池新田会所 (東大阪市)
- ・ JR 鴻池新田駅下車 徒歩2~5分
- ・ 9:30~17:00
- ・ 月曜、祝日の翌日、年末年始 休館
- ・ 入館無料

大阪市指定文化財

- 加賀屋新田会所跡 (住之江区)
- ・ Osaka Metro 住之江公園駅下車 徒歩15分
- ・ 10:00~16:30
- ・ 月曜、年末年始 休園
- ・ 入場無料(加賀屋緑地内)

◎ 三会所紹介 - 基本情報 -

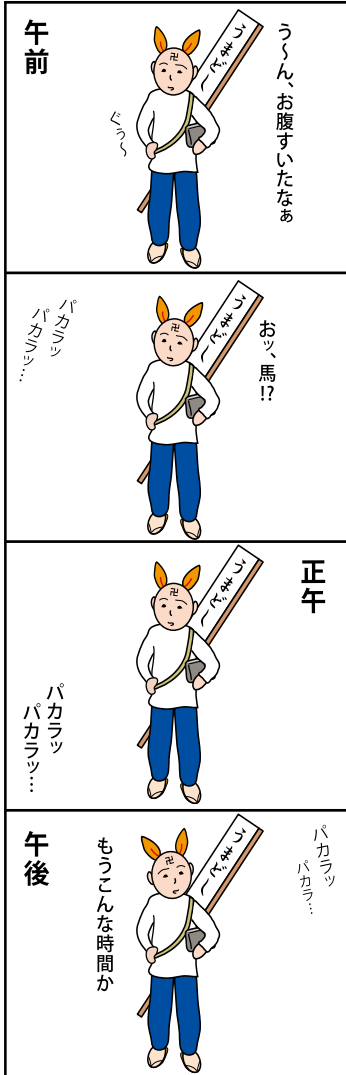
大東市指定文化財

- 平野屋新田会所跡 (大東市)
- ・ JR 住道駅下車 徒歩25分



※現在は非公開(中に入れません)

マンジークン 安富士 暁



「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

植ちよぴ。(ックス)

①夜間に見学「植松灯籠の日」

≪2025年11月15日(土)≫

毎年2回実施する夜間開館。その2回目となる「植松灯籠の日」を、今年も「関西文化の日」(無料入館日)初日の夜に行なった。当日は気候が良く、庭にある全ての灯籠に灯りを灯し(一部LEDライトを使用)、風で蝋燭の火が消えることもなかった。

かすかな灯籠の灯りと、庭にある竹灯籠風の屋外照明の光が庭全体を優しく照らし、主屋の窓に映る影絵が際立った。また建物内では、往時の夜間のくらしを偲び、静かな時間が流れた。

②少し寄り道「旧家で記念撮影く七五三」

≪2025年11月1日(土)〜30日(日)≫

10月に入ると近隣の渋川神社では毎年七五三詣の家族連れの姿が見え始める。旧植田家住宅でもこの時期、七五三詣の帰りに少し寄り道をしてもらおうと「旧家で記念撮影」の期間を設けている。着物が映える古民家や庭での撮影が自由にでき、「七五三くじ」や「千歳シール」などのお祝いも用意している。今年は70名以上の家族連れが訪れ記念撮影を楽しみ、期間終了後も写真撮影の希望者があった。



植松灯籠と主屋の影絵



竹灯籠風のライト

③地域を知る「通常展」&「ギャラリー展」

≪2025年10月4日(土)〜11月30日(日)≫

年に数回の通常展「大和川付替えと植田家の収藏品」10月は、旧植田家に伝わる河内木綿資料を一部展示し、大和川付け替えの歴史を振り返った。また隣接するギャラリーでは、ミニギャラリー展「航空写真にみる八尾」を同時開催した。今回は写真の展示パネルを新調し、より高精細に昭和から平成までの旧植田家周辺の様子を確認することができた。同展示は来年もまた予定している。



ミニギャラリー展示風景



安中新田河内木綿織



新調した航空写真パネル



歴史パネルと河内木綿

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (五十五)

文・伊東健

現在放送中のNHK朝の連続テレビ小説

「ぼけぼけ」では小泉八雲ことラフカディオ・ハーンとその伴侶となったセツの半生が描かれています。

小泉八雲の生きた時代は、元号では嘉永三年から明治三十七年、明治三十一年生まれの今東光は生前の八雲との面識はありませんでした。

その東光が、小泉八雲の業績を紹介するために翻訳を試みたのは大正十四年、八雲の死後二十一年を経っていました。東光は以下のように、この仕事の意義を語ります。少し長くなりますが以下引用です。

(前略)

此の「文學入門」の書は恐らく何人も一度は讀まなくてはならないものである。吾々が文藝に志した以上、この書物の瀟過に會はなければならぬものだと思はれる。

文學の大道は深甚微妙なものである。そして文學の大道は恰も禪道の如く無門である。何人も入り易く、然も何人も得達することが出来ない。文藝の妙諦は此の故に誠に摩訶不思議と言はなければならぬ。たまたま、ヘルン先生は此の道を指示せられた。吾々が就いて學ぶ可きではないか。(中略)

ヘルン先生は、文科大學に遊ぶ日本の青年等は、悉く文學者を志望してゐるものと觀せられたらしい。それなればこそ先生は親切に、叮嚀に解り易く、文藝の大道を纏説せられた。即ちヘルン先生は右の講義に於いて、一般文藝の注意とそのプリンシプルと、そのオピニオンに就いて、平生文學的熟練を渴望してゐる學生共のためにその助力ともなるだらうとして、この講義をせられたものらしい。しかしながら文科大學生の何人が純粹に藝術の使徒となるだらう。吾々の知つてゐる苦笑すべき事實は、文科大學生の大半以上は、單に教鞭を取るためにしか存在しないではないか。(中略)

今や日本の文學も世界のそれに伍して遜色のない迄に生長した。而して文學須知の扉を開いたヘルン先生の一本を江湖に薦める

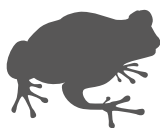
所以のものは、共に此の大道を最初の一投足よりして初めたいに他ならない。(後略)

〔文學入門〕ラフカディオ・ヘルン著 今東光譯

(大正十四年(一九一五年十一月)千日金星堂發行)

※ルビは筆者

東光二十七歳、新感覺派の作家として注目を浴び始めた青年が、東京帝國大學で教鞭を取っていた小泉八雲の講義に強い憧れを抱き、訳業を試みた心意気が旧字旧仮名から今でも伝わってきます。また、東光は自身を「芸術の使徒」として定義づけることで、無門の大道を歩き始めた自らを鼓舞したようにも読める文章です。



旧植田家住宅のご案内

2026年
1月～4月

これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2026年

◎12月6日(土)～3月15日(日)

企画展③「は・こ・ぶ、昔の暮らし」

・2/1(日)体験講座「運ぶ昔の暮らし」

・2/11(祝・水)展示解説の日(学芸員の立ち話)

◎3月20日(土)～5月6日(水)

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



イベント

(詳しくはお問い合わせください)

1月 18日(日) こどものためのお茶会

24日(土) うえまつ劇場～お家で人形劇・紙芝居～

★1/5(月)～25(日) 旧家で記念撮影～新年・成人の日～

★1/5(月)～31(土) ギャラリー展示2025(公募展)

★1/5(月)～3/9(月) 旧家で暖家支援(こたつの設置)

2月 15日(日) 旧家で落語の会

21日(土) 親子で楽しむ旧植田家住宅～焼き芋ミーティング～

3月 1日(日) 石臼珈琲体験

14日(土) 旧大和川をあるく～ぶらり平野川～

22日(日) 地域講座「植松の歴史と文化財」(仮)

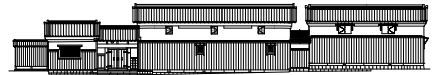
4月 未定

※予定は変更する場合があります。



休館日カレンダー

■ = 休館日



2026/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2 February

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

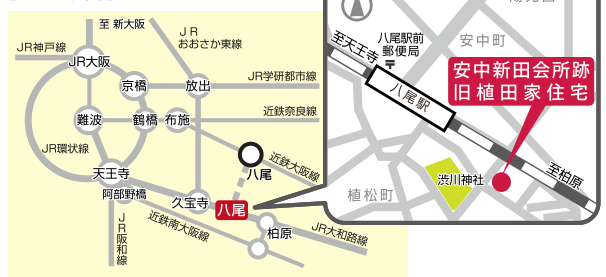
3 March

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4 April

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

【交通案内】



- ◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分
- ※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

- 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)
- 入館料：一般250円(団体20人以上で120円)
高校・大学生120円(団体60円)
※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料
- お問い合わせ(見学の相談、講座室の予約なども受付)
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25
TEL/FAX：072-992-5311
E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

#編集日記(12・22)

クリスマスの日が近づき、世の中にはクリスマスムードが漂う頃ですが、旧植田家住宅にはまだそのような雰囲気は訪れていません。▼昨日は毎年恒例のおもつきで、かまどの「煙突」が大活躍しました。また床の間には、鹿を伴うサンタクロース風の「寿老人」像の掛軸を設え、別室では「雪」のような実綿と松ぼっくりを使った輪飾りも見られます。▼要素はほぼ同じだと思のですが、飾れば飾るほど洋から遠退いて行きます。和が強い。

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

